



小中学生版

Vol.10

発行所 〒329-0101  
栃木県下都賀郡野木町大字友沼5840-7  
野木町社会福祉協議会  
(この新聞は共同募金配分事業で発行されています)

みんなで考える福祉教育

# 地域福祉新聞

～もくじ～

友沼  
小学校  
P2

野木  
小学校  
P3

佐川野  
小学校  
P4

南赤塚  
小学校  
P5

新橋  
小学校  
P6

野木  
中学校  
P7

野木第二  
中学校  
P8

点友会  
「のぎ」  
P9

手話サークル  
「虹の会」  
P9

夏の思い出  
～Summer Vacation 2014～  
P10

野木町社会福祉協議会では、町内の小・中学校7校を「学童・生徒のボランティア活動普及事業」協力校に指定し、各校の福祉教育担当の先生方と社会福祉協議会、また、日頃より福祉教育に携わっているボランティアの方々と交えて年3回連絡会議を開催しています。連絡会議では、各校における福祉教育の現状や社会福祉協議会が行う事業、地域福祉新聞の記事・校正など意見交換を行っています。

ここでは、平成26年度に行われた各校の事業、生徒の感想文を紹介するとともに、福祉教育に協力していただいている当事者の方々、社会福祉協議会で開催した講座の様子を掲載いたしました。



©中央共同募金会

野木小学校では、4年生の総合的な学習の時間に、アイマスク体験や耳や目の不自由な方との交流学習を行ったり、学校の近くにある「こもれびの舎」を訪問して、お年寄りといえふれあったりすることで「人にやさしいことって」を考える学習をしました。

総合的な学習の時間「ひとにやさしいことって」の学習の一部、こもれびの舎を訪問したときの様子です。



4年・七五三掛 佑衣

わたしたちが演奏や歌を歌っているとき、おばあちゃんやおじいちゃんはずごく喜んでくれたし、泣いている人もいたので、とてもうれしかったんだなあと思いました。また、行きたいです。



♪合唱♪

「はじめの一步」  
「エーデルワイス」  
「もみじ」

♪リコーダー演奏♪  
「もののけ姫」他



ボランティア  
こもれびの舎  
あたたかい

4年・清水 絢音

おばあさんは、「昔の歌は全てわすれてしまった。」と言っていました。体が不自由というだけでなく、いろいろなことに不便を感じる高れい者がいることに気がつきました。



いったんもめんゲーム  
トレットペーパーをうちわで扇いで相手の陣地に飛ばすゲーム

4年・秦 ほの花

フリフリゲームでは、手が痛くて腕をふれないおばあちゃんがいました。その分、みんなでがんばりました。体が不自由だと不便だなと思いました。



お年より  
元気になると うれしいな  
4年生も うれしくなったよ



4年・稲葉 裕康

ぼくは、こもれびの舎でおばあさんとスポーツのことや生き物のことを話しました。楽しかったです。

あたたまる  
お年よりの声  
すてきだな



みんなで折り紙のプレゼントをしました

4年・鶴見 来未

車いすに乗っている人が一人では動けなくて人の手助けが必要だったので、お店や駅でお年寄りを見かけたら助けてあげたいと思いました。



佐川野小学校では、4年生の総合的な学習の時間に福祉の学習をしています。みんなにとって「住みやすい町」とはどういう町なのかを一人一人が自分の事として考えるために、「高齢者疑似体験」「点字体験」「手話体験」「アイマスク体験」「車椅子体験」などを行いました。また、11月1日(土)の佐川野っ子祭りでは、「竹とんぼ」「竹馬」「絵手紙」「折り紙」「お手玉」「テーブル細工」の中から、自分でやってみたい物作り体験を選び、地域の方に教えて頂きながら楽しく活動しました。今回は、その中から3つの活動の感想を紹介します。



高齢者疑似体験

4年・<sup>こもりや</sup>小森谷 <sup>しずく</sup> 凜

体が重くてこしが曲がり、ころびそうになりました。目もよく見えず、手もうまく使えませんでした。お年よりは、体が重くてつらいことがよく分かりました。やさしく接したいと思いました。



アイマスク体験

4年・<sup>たての</sup>館野 <sup>りさ</sup> 里彩

アイマスクをすると、右か左かどこを歩いているか分からなくなり、とてもこわかったです。目が見えない大変さがよく分かりました。白じょうを持った人がいたら、自分から声をかけていきたいです。

4年・<sup>ほうじと</sup>寶示戸 <sup>しゅうま</sup> 椋真

総合の時間に、点友会の方に点字を教わりました。点の並び方でいろいろな文字になります。自分で打った文字を、目の不自由な方が読んでくださり、うれしかったです。

## 総合的な学習



点字体験

4年・<sup>つばい</sup>坪井 <sup>れな</sup> 玲捺

手話サークルの方に、手話を教えてもらいました。あいさつや自分の名前などです。きちんと相手の方を見て、はっきりと伝えることが大切だと思いました。もっと、手話を覚えたいです。

4年・<sup>ほうじと</sup>寶示戸 <sup>たすく</sup> 翼玖

車いすに乗ると一人では、3センチの段差も上れなかったです。スロープやエレベーターがどこでもあるようになり、だれもが一人でも行きたい所へ、自由に行けるようになるといいと思います。



手話体験



車椅子体験



竹とんぼ作り

6年・<sup>おおもり</sup>大森 <sup>えりか</sup> 恵梨香

私は、竹とんぼについて分かりやすく教えていただきました。やすりがけが大変で、線通りにけずれなかったところを、地域の方に手伝ってもらい、とてもいい竹とんぼができました。

## 佐川野っ子祭り 物作り体験活動

2年・<sup>ほうじと</sup>寶示戸 <sup>みの</sup> 美埜

わたしは絵手紙を体けんして、ふでのもち方が、一ばんむずかしかったです。でも教えていただきながら、かきとピーマンをかきました。たのしかったです。



絵手紙



竹馬作り

5年・<sup>きむら</sup>木村 <sup>いっせい</sup> 一星

ぼくは、佐川野っ子祭りの物作り体験で竹馬を作りました。地域のお年寄りに教わりながら作ったので、上手にできました。いろいろ知っていて、すごいと思いました。



南赤塚小学校では、5年生が総合的な学習の時間に福祉についての学習を行っています。人権強調週間には、全校児童で講話を聞き、自分たちにできる福祉について考えました。また、家庭教育学級研修会でも、手話講習会を行いました。その他にも、ボランティア委員会を中心にペットボトルキャップの回収を行うなど、自分たちにできることに少しずつ取り組んでいます。

## ★人権集会の講話★

人権強調週間の講話として「耳の不自由な方のお話と手助けしているボランティアについて」野辺実さんと手話通訳の加瀬明美さん、「虹の会」の青木光子さん、「野和の会」の秋山由美子さんから話を聞きました。実体験に基づいたみなさんのお話により、子ども達は強く心を打たれたようです。



呼ぶときには、肩をたたいてみよう！

3年・相川 将翔

自分はまだ耳が聞こえない人と話ができないので、手話を覚えて話したいと思います。



子どもの頃のお話もしてくれました



貴重な話をありがとうございました

1年・眞瀬 美敬

耳が聞こえない人に会ったら、優しくしようと思いました。

2年・田口 歩

「こんにちは」の手話を教えてもらったので、どこかで耳の不自由な人に会ったら肩をトントンとたたいて手話を使ってあいさつしたいです。

4年・大橋 優心

手話を教えてくれてありがとうございました。手話をもっと勉強して、今度また野辺さんに会ったら手話で話したいです。

5年・鈴木 大空

これまでぼくは、耳が不自由な人のことを考えたことがなかったので、改めて考えてみると、とても大変なことだと思いました。これからは紙とペンを持って外に行きたいです。

## ★小学生チャレンジスクールに参加して★

毎年たくさんの児童が夏休みに開催される「小学生チャレンジスクール」に参加しています。普段できない体験から得るものは多く、とても充実した4日間になったようです。

6年・荻原 陸斗

盲導犬について色々知ることができました。盲導犬が仕事をしている時にさわってしまうと迷惑になることが分かりました。これから気をつけたいと思います。

6年・田口 華奈

ハンディキャップ体験の中で、車イス体験が一番心に残りました。私は初めて車イスに乗りました。タイヤを手ですずっと動かすのはとても疲れて、慣れるのが大変だと思いました。



佐藤さんのお話



盲導犬についてのお話

6年・小森 優稀

生まれつき目の見えない佐藤さんの話を聞きました。佐藤さんは色々工夫して全部一人でこなしていてすごいと思いました。

「私は目が見えないのが当たり前だから大変じゃない。」と言っていたことが、とても心に残りました。

新橋小学校では、人権週間の講話としてパピーウォーカーの宮 佳奈子さんから話を聞きました。パピーウォーカーの役目や仕事を映像などを用いて子どもたちに分かりやすく教えてくださいました。

(※パピーウォーカーとは、盲導犬候補の子犬を約1年間、家族の一員として迎えていただくボランティアです。)

1年・土子 優晟

みやさんのお話をきいて、もうどう犬のことがよくわかりました。ぼくも犬が大すきなので大きくなったら、パピーウォーカーをやってみたいです。

1年・杉本 健太

ぼくも、おとなになったら、もうどう犬になる犬を一ねんかんそだててみたいです。とち木けんにいるもうどう犬が三びきしかいないときいて、びっくりしました。



紹介される宮さんとリモン

4年・新井 果恋

わたしは、もうどう犬が指示通りに動くのを見て、目の不自由な方が町で安全に歩けることを知りました。もうどう犬は体の一部なんだと思いました。大人になったら目の不自由な人のために協力できる人になりたいです。

4年・小倉 彩心

盲導犬を育てるために、たくさんの方が関わっていることを知り、すごいなあと思いました。リモンは、訓練してりっぱな盲導犬になってほしいです。私は犬が苦手ですが盲導犬と一緒に歩いてみたいと思いました。

4年・鈴木 航

パピーウォーカーさんの話を聞きました。その中で、「町で目の不自由な人が困っていたら声をかけて手伝ってあげてください。」とお願いがありました。ぼくも、自分から進んで声をかけて手伝いたいと思いました。

2年・和田 詢平

ぼくは、みやさんのお話を聞いて、もうどう犬のことがすごくわかりました。とっても大へんですが、大切なおしごとだと思います。もうどう犬をひつようとしている人のたくさん笑顔のためにも、がんばってください。

2年・大出 颯人

ぼくは、もうどう犬のことをはじめて知りました。もうどう犬は目のふじゆうな人のためにたくさんくんれんをされていてすごいなと思いました。宮さんの話を聞いてリモンもりっぱなもうどう犬になってほしいと思います。

2年・佐々本 麻菜

もうどう犬のことを、いろいろ教えてくれて、ありがとうございました。もうどう犬のやくわりやくんれんのたいへんさがよくわかりました。わたしは、犬のきもちがよくわかるので、パピーウォーカーになりたいです。

5年・須加 歩

私はお話を聞いて、パピーウォーカーについて知ることができました。そして、誰もが平等で同じなんだと感じ、命の大切さを学びました。私は、これから自分にもできることから、偏見を持たず人に接していきたいです。



お礼の気持ちをこめて花束贈呈

5年・梅山 舞良

盲導犬が目の不自由な人のために階段があるのかや、信号が赤なのかなどを教えているなんて本当にすごいと思いました。盲導犬になるために犬もすごく苦労しているので、私も目の不自由な人を助けられるよう頑張ります。

3年・富永 夢子

わたしは、もうどう犬のことをまったく知りませんでした。でも、みやさんの話を聞いて、いろいろなくんれんをしていることがわかりました。これからも、すてきなもうどう犬のこうほ生をそだててほしいなと思いました。



真剣にお話を聞きました

3年・針谷 藍

もうどう犬のお話を聞いて、私は、もうどう犬を連れて歩いている人を見かけることがあるので、その人にやさしく声をかけたいと思いました。そして、犬たちにがんばれと心から思えるようになりたいです。

6年・市村 優翔

VTRや宮さんの話を聞いて、ぼくは助け合う大切さをしりました。目が不自由だからといって、わざと気にかけなかったり、差別したりなどは、絶対にしてはいけないと思いました。ぼくのできる事を進んでしたいです。

6年・酒井 遥

今回のお話を聞き、盲導犬やパピーウォーカーについてたくさんを知ることができました。今後、目の不自由な方に対して差別をせず、自分から積極的にできるだけのかわりをしていきたいと思います。





野木中学校では、福祉委員会を中心に、毎月ごとに古紙・アルミ缶回収を実施しています。毎年益金を積み立て、福祉施設等に車いすを寄付できるよう地道な取り組みをしてきました。文化祭では、地域のお年寄りと一緒にグラウンドゴルフを楽しみ、交流を深めたり、生徒会で町の重要文化財に指定されている煉瓦窯の改修工事に伴う募金活動を実施したりしました。また、文化祭で発表した和太鼓や吹奏楽の演奏を虹の舎でも演奏するなど、様々な活動を通して地域に根ざした活動を行っています。

## 古紙回収

3年・番場 裕人

私は、3年間福祉委員として活動してきました。そして今年、委員長として全体をまとめる役割になりました。福祉委員会の仕事は主に、古紙・アルミ缶回収と募金活動です。募金活動では、みどりの羽根募金や赤い羽根募金、歳末助け合い運動などを行っています。古紙・アルミ缶回収では、年間を通して毎月2日間にわたって実施しています。委員会として全校生の持参率100%を目指して4月から活動しました。委員の人たちの努力と野木中生全員の協力のお陰で、1学期からたくさんの古紙・アルミ缶が集まりました。その古紙・アルミ缶をお金に換えて今年度は、リヤカーを購入することができました。来年も福祉委員会を中心に呼びかけをして、今年よりも多くの方が協力してくれることを願っています。



## 文化祭・高齢者接待

3年・西本 きよし

私たち「物作り講座」では、文化祭の当日に地域のお年寄りの方々をお招きしてグラウンドゴルフを行いました。私は、当日までグラウンドゴルフがどのようなものか知らなかったのですが、上手なお年寄りの方々にリードして、楽しんでいただけるかどうかとても心配でした。しかし、当日になると、お年寄りの方々がとても元気で明るく、打ち方やルールを分かりやすく教えてくださったので、やっていくうちに最初の不安は全く消えました。また、お年寄りの方々の思い出を聞いて色々なことを知ることができました。グラウンドゴルフを心から楽しむことができました。地域の方々との交流を深めることができて良かったです。



## 虹の舎・和太鼓

3年・杉原 歩夢

私は1・2・3年と文化祭の和太鼓講座を選択し、活動してきました。「虹の舎」で行われる収穫祭での演奏は、校外での演奏とあって、全く学校での演奏とは違う感覚でした。また、文化祭が終わった後ということで、練習もあまりできず、自分も含め全員が不安な表情を浮かべていました。しかし、施設の方々や観客のみなさんの温かい声援に応えるために和太鼓の仲間と円陣を組み、全員で気合いを入れ全力でやり通しました。司会者からの質問にもアドリブで返答し、無事に演奏を終了し成功させることができました。演奏し終わった瞬間、全員がやり遂げた達成感で笑顔になっていました。この時、このメンバーで和太鼓の演奏をするのは最後だと感じました。最後だからこそ、多くの観客のみなさまに演奏を披露することができて本当に良かったと思いました。施設の方から「上手だったよ」と笑顔で言っていた時は、とても満ち足りた気分でした。

最後に、和太鼓講座に入って最高の経験ができ、最高の仲間に出会うことができました。そして、人のために演奏することが、こんなにもすがすがしい気持ちになれると感じることができました。



## 募金活動

3年・長谷部 雄哉

今年も私たち野木中生徒会は、10月の文化祭で野木町の貴重な文化財であるホフマンれんが窯の補修工事のための募金活動を行いました。

今年はハロウィンの衣装を着て、直接呼びかけをして活動したので昨年よりも多く集まりました。私たちの活動している姿を見てくださいました方々が、快く募金をしてくださいましたので私たちの心も温かくなりました。

私たちはこの活動を通して改めて呼びかけの大切さに気づくことができました。来年は、今年よりもたくさんの募金を集めてもらえるように頑張りたいと思います。

募金をしてくださいました皆様、本当にありがとうございました。

友沼小学校では、4年生の総合的な学習の時間に、福祉の学習をしています。アイマスクや車いす、高齢者疑似体験などを実施しました。手話サークル「虹の会」「野和の会」の皆様からは、手話を教えていただき、耳が不自由な方に直接お話を聞くこともできました。話を聞いたり、自分で体験したりする中で、その困難さを知り、一人一人が、今の自分にできることは何かを考えるきっかけとなりました。

## 4年・江連 柚貴

ハンディキャップ体験の中で、一番難しかったのは、アイマスクです。アイマスクを付けると、目が見えないため、どうしてもかべや物にぶつかってしまうので、見える人と手をつないで歩きました。



## 4年・長島 愛李

アイマスク体験は、目の前が真っ暗でした。目の不自由な人は、景色も分からないし、自由に歩けなくて大変だと思いました。このような、困っている人がいたら、少しでも助けたいと思いました。



### アイマスク 体験

## 4年・須田 瑛仁

車いす体験では、友だちと交代で車いすを押したり、乗ったりしました。車いすには、ブレーキやキャスターなど、いろいろなしくみがあって、すごいなと思いました。



### 車椅子 体験

## 4年・関根 明純

高齢者疑似体験では、メガネをかけ、つえを持ち、重りのついた服を着ました。段差がないところも、一歩でも歩くのが大変でした。私は、少ししかできませんでしたが、高齢者の方は、思ったとおりにいつも動けないので、大変だと思いました。高齢者や私のおばあちゃんが困っていたら、手伝いたかったです。



### 高齢者疑似 体験



## 4年・落合 華菜

高齢者疑似体験では、いろいろな所に重りをつけたので、体が重かったです。くもったメガネをかけたので、方向もよく分かりませんでした。階段を上ったり下りたりするのが難しかったです。体験して分かった高齢者の方の気持ちなどを、家族に伝えたいです。

### 手話 体験

## 4年・秋元 爽汰

ぼくは、手話教室で、たくさんの手話を習いました。習った手話は、どれも生活で使う手話なので、家の人とも一緒にやりました。もっと練習して、上手にできるようになったら、耳の不自由な友だちと、手話で話してみたいです。



## 4年・知久 幸生

ぼくは、手話教室で、自分の名前や家族など、いろいろな手話を習いました。ぼくの友だちで、耳の不自由な人がいるので、今度会った時には、手話を使って話してみたいです。



# 野木第二 中学校

野木第二中学校では、6月の「ひまわり荘」訪問で、お年寄りの皆さんと七夕の飾りつけを楽しむことができました。また、8月のOne Dayボランティアスクールでは、宇都宮市の「とちぎ視聴覚障害者情報センター」施設を見学し、さらに車いすバスケットボールを体験してきました。10月には、「輝光祭」においてひまわり荘の方々を招待して、楽しい時間を過ごすことができました。このことは、貴重な体験となり、今後の生活に生かしていきたいと思ひます。

## ひまわり荘を訪問して

3年・<sup>たまた</sup>瀧田 <sup>のぞみ</sup>望

私はひまわり荘を訪問し、七夕の飾りつけをしてきました。手作りの飾りをつけるのは楽しく、願いが届くことを祈りながら行いました。笹をたてるととても華やかになりました。お年寄りの方も手伝って下さり、良い交流となりました。これからもこのような地域交流を行っていき、良い伝統を築いていけるといいと思ひました。



七夕の飾り付け

## One Dayボランティアスクールに参加して

2年・<sup>すか</sup>須加 <sup>はるか</sup>遥香



車椅子バスケットボール

8月8日、私はOne Dayボランティアスクールに参加して、多くのことを学びました。視覚に障害のある佐藤さんのお話を聞いて、大変だったことの話も明るく話して下さるのが、すごいなと思ひました。佐藤さんは、目が不自由でもいろいろな事ができるんだよと話して下さり、リンゴの皮むきは特に驚きました。また、身の回りのものに点字がついていることも教えていただきました。家に帰って身の回りの物を見てみると、確かに点字がついていて、本当なんだと改めて思ひました。車いすを使って生活している佐々木さんの話では、スキーや陸上競技も車いすですでできることを知りました。車いすバスケットボールの体験では、野木中の人たちとも交流ができて楽しかったです。プレーをしていると、車いす同士がぶつかってしまい、とても激しいスポーツだと感じました。今回の体験で、福祉についてお話を聞き、障害を持っていても明るく元

気に生活を楽しんでいるところが心に残りました。さらに、学校で行っている様々な募金活動の理解が深まりました。今回、参加して学んだことを、今後の生活に生かしていきたいです。

## 輝光祭ひまわり荘接待をやってみて

1年・<sup>あらもみ</sup>荒羽 <sup>ひめの</sup>姫乃

私はひまわり荘の方々と過ごして、いろいろ学びました。おばあちゃんやおじいちゃんといっしょに、たくさんのお話やあやとりなどができ楽しかったです。特に楽しかったことは、おばあちゃんの昔の話を聞いたことです。最初は話が途切れてしまわないかと心配しましたが、スムーズに話ができて良かったです。昔の遊びを教えてくださいましたので、今度やってみようと思ひます。接待を通していろいろ学ぶ事ができずごく勉強になりました。これから、お年寄りに優しく接し楽しく過ごしていきたいです。最後に、この係をやった感じたことは、おばあちゃんやおじいちゃんは一日一日を大切に過ごしていることです。自分も一日一日を大切に生活していきたいです。



輝光祭ひまわり荘接待

1年・<sup>すずき</sup>鈴木 <sup>しゅんすけ</sup>俊介

僕は、輝光祭でひまわり荘接待係をやって、ひまわり荘のおじいさんやおばあさんと遊んだり、展示物を見て回ったりしました。また、一緒に昼食をとりながらいろいろな話をしたりして、初めての輝光祭をとて楽しいものにする事ができました。僕が接待の活動で一番印象に残っているのは、担当のおじいさんとたくさん話をしながら、1階の展示物を見て回ったことです。初めてひまわり荘の方々と会ったとき、とて緊張していましたが、おじいさんの方から話をかけて下さり、和やかになりとて安心して生活することができました。コミュニケーションの大切さを実感しました。1階の見学を終え休憩に入り、昼食をいっしょにしました。地域のことやおじいさんの住んでいたところの様子をくわしく話して下さり、とて楽しかったです。最後にお別れする時、おじいさんやおばあさんたちに、僕が家で作ってきた折り紙の作品を渡しました。その時、「大切にします」と言われた言葉は忘れられません。心の交流ができ、あたたかい気持ちになりました。

私の手元に今、点字に訳された一冊の詩集があります。  
 視力0の私にとって、文字と言えは点字です。その他、録音によって小説などは聞く事ができます。  
 野木町では、ボランティアグループの朗読の会「のぎく」と点友会「のぎ」に、大変助けられております。  
 町の広報とお知らせ版は朗読で、そしてカレンダーや時刻表、ごみ計画表などは点字で頂いております。  
 私は、川柳や詩が好きなので、点字に訳されたこの詩集は貴重な一冊です。  
 栃木県出身の柴田トヨさんの書かれた『くじけないで』は、読むたびに励まされ、元気づけられております。  
 どの詩も素晴らしいのですが、一つだけ書かせて頂きます。  
 私も元気を出して、くじけずに生きたいと願っております。



貯 金

私ね 人から  
 やさしさを貰ったら  
 心に貯金をしておくの  
 さびしくなった時は  
 それを引き出して  
 元気になる  
 あなたも 今から  
 積んでおきなさい  
 年金より  
 いわより

柴田トヨの  
 『くじけないで』より

### 点友会「のぎ」

活 動 日／第2・4火曜日  
 活動時間／午前10:00～12:00  
 活動場所／ホープ館  
 年 会 費／500円

### 3う者の世界・聴者の世界（お互いの言葉のスレと誤解） 手話サークル「虹の会」 野辺 実

私は、6歳の時、高熱で耳が不自由になりました。日常では、手話と口話（相手の口元の動きを読み取って話すこと）でコミュニケーションをしています。私は、ろう者も口話を学べば聴者と会話が通じると思っていました。しかし、実際はそうではありませんでした。

例えば、「たまご たばこ なまこ」「本当 今度 歩道」「ビール 水 ミス」などで口の動きが似ています。正面で話しても相手の口元を読み取れないこともあります。

私達ろう者は、色々な言葉や真新しい言葉、読み方を耳で聞き取ることが出来ません。後ろから声をかけられても気づかず、無視したと思われたこともありました。ろう者は身振り、手振り、喜怒哀楽や驚きを表情で伝えるなど感情表現はとても豊かですが、相手から発言された情報の受け止め方の相違やうまく口元が読み取れなかった時の受け止め方において誤解を生じることもあります。

それを補ってくれるのが筆談や手話です。最近では、手話の大切さを理解し、学んでくれる人も増えて手話指導を続ける励みになっています。



人権講演会（南赤塚小）



### 手話サークル 虹の会

活 動 日／毎週土曜日  
 活動時間／午前10:00～12:00  
 活動場所／ホープ館  
 年 会 費／1,000円

# 夏の思い出 ～ Summer Vacation 2014 ～



## ボランティアサマースクール



## 小学生チャレンジスクール



## Onedayボランティアスクール

